

9. 岡山県のみもにおけるカイガラムシ類の発生状況

[要約]

岡山県のみも産地では、防除時期の異なるウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの両種が広範囲に発生しており、一部地域ではナシマルカイガラムシ（サンホーゼカイガラムシ）も発生している。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県のみも園では、マシン油乳剤の使用の減少や化学農薬の散布回数の減少などによって、カイガラムシ類が多発傾向である。本県のみもに発生しているカイガラムシは、ウメシロカイガラムシが優占していると考えられてきたが、県内の一部地域でクワシロカイガラムシやナシマルカイガラムシの発生が確認された。これらは防除時期が異なるため、防除効果が安定しない。そこで、県内全域のカイガラムシ類の発生状況を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 県内全域では、ウメシロカイガラムシが優占種で発生している圃場割合は36.2%、クワシロカイガラムシが優占種で発生している圃場割合は55.3%、両種が混発している圃場割合は8.5%である（図1、図3）。
2. 地域別では、県南部及び北部ではクワシロカイガラムシの発生圃場割合は約50%、中部では約90%である（図2）
3. 県内の一部地域では上記2種とは防除時期が異なるナシマルカイガラムシの発生が確認されている（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本調査は、県内のみも生産圃場47圃場での調査結果である。
2. カイガラムシに対する防除時期はカイガラムシの種類によって異なるため、各園で発生しているカイガラムシの種類に合わせた防除が必要である。

[具体的データ]

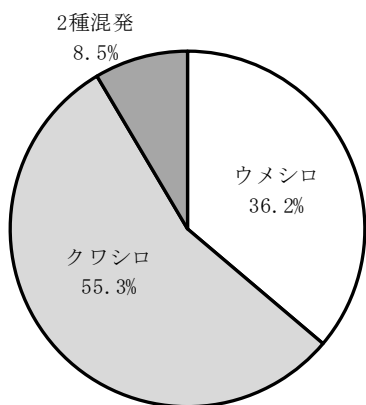
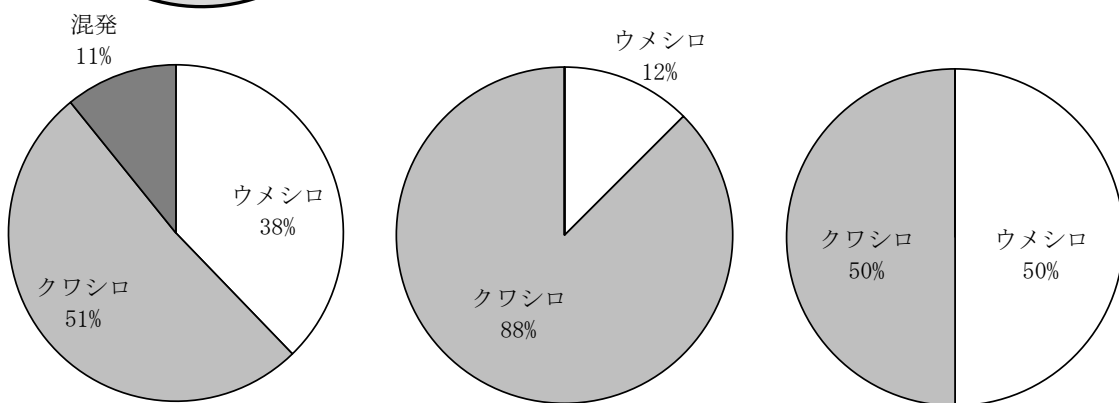


図1 県内におけるウメシロカイガラムシ及びクワシロカイガラムシの発生状況 (47 圃場)

注) 圃場内で同一種が75%以上占める種を「優占種」、25~75%の割合で2種が混在している場合を「混発」とする



県南部の発生状況 (37 圃場調査) 県中部の発生状況 (8 圃場調査) 県北部の発生状況 (2 圃場調査)

図2 地域別におけるウメシロカイガラムシ及びクワシロカイガラムシの発生状況

注) 県南部は備前、備南地域、県中部は東備、高梁地域、県北部は勝英、新見地域



図3 カイガラムシ類の形態

左：ウメシロカイガラムシの雌成虫（体長2～3mm、オレンジ色）と雌成虫を覆ったカイガラ（白色）
 中：ウメシロカイガラムシ雌成虫と卵（カイガラをとりはずした雌成虫）
 右：クワシロカイガラムシの雌成虫（体長2～3mm、オレンジ色）と雌成虫を覆ったカイガラ（白色）

[その他]

研究課題名：モモのナシマルカイガラムシ防除体系の確立

予算区分：病虫害等防除総合対策事業

研究期間：2015年度

研究担当者：薬師寺賢、佐野敏広

関連情報：平成27年度試験研究主要成果、45-46